

# 県医師会の動き

副会長 吉本 正博

2月号で「今冬一番の寒波が日本全国を襲いました」と書きましたが、1月下旬から2月中旬にかけて、今度は「数年に一度の寒気」の影響で日本海側を中心に大雪となりました。2月10日(金)には平昌冬季オリンピックの開会式が行われました。今ひとつ盛り上がり欠ける大会と言われていましたが、北朝鮮と韓国が統一旗の下に参加する等の話題もあり、また、日本選手の活躍でメダル獲得数も長野五輪での獲得数を上回るのではとの期待もあり、次第に関心が高くなってきたように思います。

1月14日(日)に日本医師会館で厚生労働省委託事業「在宅医療関連講師人材養成事業研修会～高齢者を対象とした在宅医療分野～」が開催され、弘山直滋 常任理事と徳山医師会の武居道彦 先生が参加されています。今回は人口別に3つのカテゴリーに分け、地域での取り組みの紹介、そしてワークショップによる検討・発表が、「在宅療養の継続(望まれない形での在宅医療の中断)」、「24時間対応・医師の負担感」、「多職種協働(在宅医療の職歴性)」の3つのテーマに分かれて行われたとのことですが。

1月16日(火)に開催された都道府県医師会長協議会で河村康明 会長が、「小規模入院施設の今後について」質問を行いました。詳細については『日医ニュース』をご覧ください。

1月17日(水)開催の山口県感染症健康危機管理対策協議会に藤本俊文 常任理事が出席しています。腸管出血性大腸菌感染症、インフルエンザ、HIV/AIDS、結核、麻疹、風疹、重症熱性血小板減少症候群、梅毒の発生状況と対策につ

いての協議が行われたとのことですが、気になるのは、梅毒の報告が平成29年は22例と前年の2倍以上になっていたことです。しかも20代の若い女性が5例あったそうです。

1月18日(木)には濱本史明 副会長が健康やまぐち21推進協議会に、1月19日(金)には毒物劇物安全管理研究会に林 弘人 専務理事、山口大学医学部附属病院監査委員会に河村会長、日本医師会地域医療対策委員会に弘山常任理事が出席してしていますし、1月24日(水)には河村会長が中国地方社会保険医療協議会山口部会に、1月26日(金)には今村孝子 常任理事が山口県福祉サービス運営適正化委員会苦情解決部会に、1月28日(日)に香田和宏 理事が岡山県医師会館で開催された全国有床診療所連絡協議会中国四国ブロック会役員会・総会・研修会に参加する等、新年早々、県医師会が主催する会以外でも非常に多忙な毎日となっています。

県医師会報企画「女性医師部会座談会」を1月20日(土)に岩国市医療センター医師会病院で行いました。座談会の出席者は司会の今村常任理事のほか、6人の女性医師の方々です。内容については後日、本会報に掲載予定ですので、そちらをご覧ください。

1月24日(水)に山口市医師会で「なんでもトーク in 山口・防府・美祢地域」を開催しました。各地区の医師会長、病院長、副院長、部長の先生方に出席していただきました。本来の趣旨は、部・科長クラスの先生方に参加していただいて、医療現場での悩みや問題点について本音で話してもらおうというものでしたが、院長の出席が多いのは

予想外でした。

1 月 25 日（木）にも多くの委員会、協議会、検討会が予定されていましたが、大雪のため中止となりました。

1 月 27 日（土）には“子育ての応援とゼロ歳児からの虐待防止を目指して”をテーマに「**子育て支援フォーラム**」が開催されました。205 名の参加者があり、非常に盛会でした。

1 月 27 日（土）と 28 日（日）の 2 日間にわたり、三田尻病院において「**第 1 回地域災害医療コーディネーション研修会 in 三田尻**」が開催されました。山口県では災害医療コーディネーターとして、現在 8 名の登録があります。しかし、市町レベルのコーディネーターの養成が急務であるとの観点から、国立病院機構大阪医療センターの協力を得て、三田尻病院院長の豊田秀二 先生のお世話で開催されたとのこと。本来は行政が行うべき事業と思われそうですが、ご尽力いただきました豊田先生並びに三田尻病院理事長（防府医師会長）の神徳眞也 先生に敬意を表したいと思います。

2 月 3 日（土）と 4 日（日）に日医会館で開催された**日本医師会医療情報システム協議会**に白澤文吾 理事と中村 洋 理事が参加しました。今回の協議会のメインテーマは「未来につながる日医 IT 戦略」で、1 日目は改正個人情報保護法の医療現場への影響、2 日目は「日医 IT 化宣言 2016」の実現に向けての日医の医療 IT 戦略、各地域での医療情報ネットワークの事例報告、AI によって将来の医療がどのように変わるか、について講演が行われました。

同じく 2 月 3 日（土）と 4 日（日）には名古屋市で、**若年者心疾患・生活習慣病対策協議会理事会・評議員会並びに総会**が開催され、濱本副会長と今村常任理事が出席しています。

2 月 8 日（木）には**平成 29 年度第 2 回郡市医師会地域包括ケア担当理事会**が開催されていま

す。県医療政策課から、30 年度事業として地域医療介護総合確保基金を活用して郡市医師会を中心とした協議会方式による事業を考えているとの話があったようです。

2 月 9 日（金）には**三師会懇談会**が山口県歯科医師会の担当で開催されました。来賓として 2 期目の当選を果たしたばかりの村岡嗣政 知事をはじめ、浅原 司 教育長、岡 紳爾 健康福祉部長に出席していただきました。今回の講話では、喜多洋輔 健康増進課長から「山口県民の健康増進における県内教育基盤の重要性について」と題する、非常に興味あるお話を伺うことができました。最初に、生活習慣病に対して、いわゆる「自己責任論」が主張されていることに触れ、低所得、低学歴の者ほど喫煙率が高いこと等をデータで示しながら、幼少時からの教育の重要性を強調されました。次いで、山口県の大学進学率が全国平均より 10%低いこと、人口あたりの医学部入学者数が山口県は中国四国では最下位であること、東京大学合格者数が以前の全国 25 位から、最近では 45 位と減少していること、女性医師が都会での勤務を希望し、地方での勤務を忌避する理由として子弟が十分な教育を受けられないことを上げていることを示し、貧困世帯への早期介入とともに県立高校の学力アップ、医学部進学率のアップを図る必要があると強調されました。

2 月 10 日（土）に**警察医会役員会、研修会**がホテルニュータナカで開催されました。研修会は今回で 22 回目となり、年 2 回の開催ですので、11 年間続けてきたこととなります。毎回講演をしていただいている藤宮龍也 教授をはじめとする山口大学大学院医学系研究科法医学講座のスタッフの先生方、県警、天野秀雄 会長をはじめとする警察医会の役員の方の先生方のご尽力に改めてお礼を申し上げます。

2 月 15 日（木）には**山口県師国民健康保険組合通常組合会、郡市医師会長会議**が開催されました。詳細については後日、本会報に掲載されますので、そちらをご参照ください。

2月15日(木)開催の理事会で、医師会事務局組織の見直し案についての協議が行われました。総務課と経理課を統合し、総務課として組織変更を行うというものです。現在、どちらの課も課長1名に課員1名の体制となっていますが、病気休暇や退職等があった際の応援体制や事務引き継ぎに問題が生じる可能性があるためです。

カール・シューリヒトという指揮者は1880年生まれですから、1886年生まれのフルトヴェングラーとほぼ同世代の指揮者といえます。当初予定されていたエーリッヒ・クライバーが急逝したため、モーツァルトの生誕200年にあたる1956年1月のウィーン・フィル初の米国演奏旅行に指揮者として同行したのがきっかけで一躍有名になりました。指揮者としては高齢になってから世界的名声を得た人といえます。モーツァルトやブルックナー、ベートーヴェン、ブラームスの交響曲の演奏に定評がありました。特に、ウィーン・フィルとのブルックナーの交響曲の録音は今でも高く評価されています。シューリヒトの演奏スタイルは、基本的にテンポが非常に速く、リズムは鋭く冴えており、響きは生命力に満ち、かつ透明度の高いものでした。ウィーン・フィルとの練習を見学させてもらっていた指揮者の岩城宏之が、シューリヒトが指示を出すたびにオケの音色が

どんどん変わっていく様を見て、「神だ！神だ！」と呟いていたという有名なエピソードがあります。1965年8月6日のザルツブルク音楽祭におけるウィーン・フィルとの演奏会が彼の最後の公演となりました。そして、最後の録音が1966年4月に収録されたチューリヒ・バロック合奏団とのJ.S.バッハの「ブランデンブルク協奏曲」でした。そのLPレコードを高校生時代に入手し、繰り返し聴いたものです。トランペットのモーリス・アンドレやオーボエのハインツ・ホリガーといった名手が参加していますし、録音もコンサートホール・ソサイエティにしては良い方だと思います。自筆譜に「いくつもの楽器による協奏曲集」と記載されている6つの曲からなるこの協奏曲集は、ブランデンブルク＝シュヴェート辺境伯クリスティアン・ルートヴィヒに献呈されたため「ブランデンブルク協奏曲」と呼ばれています。第5番はチェンバロ協奏曲といって良いほどチェンバロが活躍しますが、その他の曲はトランペットやリコーダー、オーボエ、ヴァイオリンが入れ替わり旋律を奏でて、まさに「いくつもの楽器による協奏曲集」といった趣です。バッハの管弦楽曲の中では「管弦楽組曲」と並んで人気のある曲です。

### 死体検案数掲載について

山口県警察管内発生 of 死体検案数								
	自殺	病死	他殺	他過失	自過失	災害	その他	合計
Jan-18	16	234	0	1	14	0	15	280

死体検案数と死亡種別 (平成 30 年 1 月分)

